

総合判定	注意事項
A	今回の健康診断で特に問題はありませんでした。
B	今回の健康診断で僅かに所見が認められますが、特に問題は ありませんでした。今後とも健康の保持、増進に励んでください。
C	所見が認められますので経過観察してください。体調に配慮し、変化を感じた場合には次年度の健診を待たずに医師・保健師等に相談してください。
D	所見が認められますので、詳しい検査を受けてください。今後とも更に健康の保持・増進に励んでください。
E	医療機関を受診し、日常生活の指導や治療について指示を受けてください。受診の際はこの通知を持参してください。
F	現在、加療中のようなので今回の健診結果を主治医に見せてください。日常生活や治療についての主治医の注意をよく守ってください。

■ BMI（体格指数） ■

BMIの値で太っているかやせているかがわかります。 体重(kg)÷(身長(m)) ² で算出します。			
	要注意	基準値*	要注意
体格指数(BMI)	18.4以下(低体重)	18.5～24.9	25.0以上(肥満)
*将来、脳・心血管疾患を発症しうる可能性を考慮した基準範囲			

■ 血 圧 ■

心臓のポンプ機能や血管の状態が正常かどうかわかります。 収縮期血圧とは心臓が最大に収縮して血管壁にかかる圧力 拡張期血圧とは心臓が拡張して、血液をため込んでいるときに血管壁にかかる圧力				
		基準範囲*	要注意	異常
血圧	収縮期血圧	129以下	130～159	160以上
	拡張期血圧	84以下	85～99	100以上
*将来、脳・心血管疾患を発症しうる可能性を考慮した基準範囲				

■ 心 電 図 ■

心臓は、血液を全身に循環させるポンプ作用で、休むことなく収縮を規則的に繰り返します。その作用を起こさせるために電氣的刺激が発生し、心筋を伝わります。それを手、足、胸につけた電極によって記録したものが心電図です。この検査により不整脈をはじめ、心肥大、心筋虚血の状態などを把握することができます。	
--	--

■ 胸 部 X 線 ■

胸部X線検査は、呼吸器系の病気、特に肺がん、肺結核の早期発見に役立ち、又、他にも心臓や大動脈、横隔膜、脊椎などの状態を知るための検査です。さらに、肺炎、気管支炎、肺のう胞症などの診断にも欠かせない検査です。

■ 血液検査 ■

項目	特徴	異常を示す場合
血液一般	赤血球 (RBC)	肺で取り入れた酸素を全身に運び、不要となった二酸化炭素を回収して肺へ送る役目を担っています。 高値では多血症など 低値では貧血など
	白血球 (WBC)	細菌などから体を守る働きをしています。 高値では細菌感染症、炎症、腫瘍など 低値ではウイルス感染症、薬物アレルギーなど
	血色素量 (Hb) (ヘモグロビン)	赤血球に含まれるヘムたんぱく質で、酸素の運搬役を果たします。 低値では鉄欠乏性貧血など
	ヘマトクリット (Ht)	血液全体に占める赤血球の割合のことをいいます。 高値では多血症、脱水など 低値では鉄欠乏性貧血など
	血小板数 (PLT)	出血したとき、その部分に粘着して出血を止める役割を果たしています。 高値では血小板血症、鉄欠乏性貧血など 低値では血液疾患、肝硬変など
肝機能	AST	心臓、肝臓、筋肉、腎臓などのさまざまな臓器に存在する酵素です。これらの臓器が障害を受けると、この酵素が血液中に放出され、高値を示します。 高値では急性肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝炎、肝臓がん、脂肪肝など
	ALT	主に肝臓に存在するため、ASTとALTの両方が高値のとき、あるいはALTのみが高値の場合には肝障害の可能性が高くなります。 高値では急性肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝炎、肝臓がん、脂肪肝など
	γ-GTP	肝臓や胆道に異常があると血液中の数値が上昇します。服薬中の方は薬の影響の可能性もあります。 高値ではアルコール性肝障害、胆汁うっ滞、薬剤性肝障害、慢性肝炎など
	ALP	身体のほとんどの臓器に含まれている酵素ですが、主に肝臓、胆管、骨、胎盤などに多く分布します。 高値では肝、胆道、骨疾患など 低値では甲状腺機能低下症など
	LDH	各種臓器に広く分布し肝臓、心臓、骨格筋などの様々な臓器の障害の指標になります。 高値では肝、胆道疾患、腎疾患など
	総蛋白	血液中の総たんぱく質の量を表します。 高値では多発性骨髄腫、慢性炎症、脱水など 低値ではネフローゼ症候群、栄養障害、がんなど
	総ビリルビン	赤血球には寿命があり毎日少しずつ壊れていますが、その際にヘモグロビンが分解されて生じるものがビリルビンです。 高値では肝障害、黄疸、胆石など
	HBs抗原	B型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。 陽性ではB型肝炎ウイルス感染
	HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。 陽性ではC型肝炎ウイルス感染
血糖	血糖	血液中のブドウ糖(血糖)はエネルギー源として利用され、膵臓から出るインスリンというホルモンの働きが十分でない場合や量が少ない場合に、血糖値が上がります。 高値では糖尿病、膵臓癌、ホルモン異常など
	HbA1c	過去1~2ヶ月の血糖の平均的な状態を反映するため、糖尿病のコントロールの状態がわかります。 空腹時血糖が126mg/dL以上かつHbA1cが6.5%以上なら糖尿病と判断します

■ 血液検査 ■

項目	特徴	異常を示す場合	
脂質	総コレステロール	コレステロールは血液に含まれる脂肪分の1つで、細胞やホルモンを作るために必要な物質です。	高値では動脈硬化、心筋梗塞、狭心症、脳梗塞など
	HDL-C	善玉コレステロールと呼ばれるものです。血液中の悪玉コレステロールを回収します。	低値では脂質代謝異常、動脈硬化など
	中性脂肪	体内の中でもっとも多い脂肪で、糖質がエネルギーとして脂肪に変化したものです。	高値では動脈硬化など 低値では低βリポたんぱく血症、低栄養など
	LDL-C	悪玉コレステロールと呼ばれるものです。LDLコレステロールが多すぎると血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させます。	高値では心筋梗塞、脳梗塞など
	non-HDL-C	すべての動脈硬化を引き起こすコレステロールを表します。動脈硬化のリスクを総合的に管理できる指標です。	高値では甲状腺機能低下症、動脈硬化、脂質代謝異常、家族性高脂血症など 低値では低βリポたんぱく血症、栄養吸収障害、肝硬変など
腎機能	尿酸	身体の細胞の核にあるプリン体が壊れてできるものです。	高値では痛風発作など
	尿素窒素	尿素窒素は蛋白が身体の中で分解されたときにできる老廃物で、これらは腎臓から尿中に排出されます。	高値では腎疾患、糖尿病など 低値では肝不全など
	クレアチニン	腎機能の指標です。筋肉量に影響されるため、男性がやや高値になります。	高値では腎臓の機能低下など
	e-GFR	腎臓の排泄能力を調べる検査で、血中のクレアチニンと年齢、性別から推算します。	低値では腎臓の機能低下など
膵臓	血清アミラーゼ	膵臓に含まれる消化酵素のひとつです。アルコールの飲みすぎや脂肪のとりすぎ等で膵細胞が破壊されると、アミラーゼが上昇します。	高値では膵疾患、腸閉塞、卵巣腫瘍、肝炎、腎不全など
血清	CRP	細菌感染、ウイルス感染、炎症、がん等がないかを調べます。	高値では自己免疫疾患、感染症、手術後、心筋梗塞など
尿	蛋白	正常であれば、血液中の蛋白は腎臓ですべて再吸収されます。腎機能が低下すると、体にとって必要な蛋白が腎臓から漏れ出てきます。	陽性では腎炎、尿路感染など
	糖	血液中の糖濃度がある値を超えると再吸収しきれなくなり尿中に糖が漏れ出てきます。	陽性では糖尿病、腎性糖尿、甲状腺機能亢進症など
	潜血	試験紙に反応があれば、尿の通り道のどこかに出血源があります。	陽性では尿路結石、糸球体腎炎、膀胱炎など
	ウロビリノーゲン	肝臓でつくられる胆汁の中のビリルビンという色素が分解されてできた物質で、肝機能低下によって尿中に多く出てきます。	陽性では急性・慢性肝炎、胆管結石など
便検査	便潜血	便に血が混じっているかどうかを調べます。	陽性では大腸ポリープ、大腸がん消化管の出血性の病気など